

～みんなの絆でよりよい町へ～

## 第41回

# 只見町文化祭

第41回を迎えた只見町文化祭が、11月3日、町下町民体育館をメイン会場に開かれ、町内外から約1500人が来場、にぎわいを見せました。

町下町民体育館前で行われた開館式で、文化祭実行委員会長の目黒町長は「7月29日に発生した豪雨で只見町は甚大な被害を受けました。その災害からの復興に向け、皆さんの絆をより強力なものとし、よりよい町にしていくための文化祭になればと思います。さらに、地域文化の伝承を通じて文化意識を高めるとともに温かい心のふれあいと豊かな人間性を育み、生き生きとした地域づくりにつなげていただきたい」とあいさつを述べました。続いて、目黒町長、五十嵐拓町議会議長、飯塚恒夫町文化協会長、横山大太郎町教育委員長の4名によりテープカットが行われ、詰めかけた町民の方などが次々と入場されました。

今年の文化祭は災害からの復興をメインテーマに行われ、会場の中央には町民の皆さんが復興を願い作製した折り鶴1万2千羽がつり下げられ、高さ5メートルにもなるその姿は一日も早い復興を祈願していました。また、復興ぞうりも販売、売上金の一部は義援金として町に寄附されました。

メインコーナーでも、豪雨災害からの復興に向けて、町の取り組みや方針を紹介、さらに被災前と被災後の様子を写真で紹介したほか、小学生から中学、高校生の復興に関するアイディアや夢を紹介すると同時に入賞者を表彰しました。（アイディア大賞は4〜5ページで紹介）

また、場内では体験メニューも準備され、つる細工、折り紙、俳句・短歌づくりの各体験ができた。手づくり紙芝居も上演され、たくさんの方が参加、指導を受けながら作品を仕上げました。

健康づくりコーナーでは「ぼくとわたしの自慢の朝ごはんコンテスト」の表彰式が行われ、6名の入賞者に目黒町長から賞状や記念品が手渡されました。また、只見町名誉町民で8月に亡くなられた皆川政二郎（雅舟）氏の厳選作品を展示したコーナーも設けられ、雅舟氏の生い立ちやご功績も紹介されました。

体育館の壁には、ブナの木メッセージコーナーとして、只見・朝日・明和の各保育所の子どもたちが描いた力強いブナの巨木の絵が貼られ、訪れた方々が復興への思いを葉の形をした紙に書いて貼り付けていました。

町民芸術、手工芸、町民文芸、民芸品、只見高校PRの各コーナーには日々の努力の成果がうかがえる作品の数々が展示され、入館者に感動を与えていました。

町赤十字奉仕団が行なったバ

ザー、体育館ピロティで行われた物産販売なども大勢の方でにぎわい、大好評でした。さらに、町下野球場リニューアル記念として、元ヤクルトスワローズの野口寿浩捕手と元ロッテマリーンズの和田孝志投手を講師に招き、野球教室も開かれ、集まった小中学生が憧れの元プロ野球選手から楽しくアドバイスを受けていました。この日は、食育講演会や父と子のふれあい運動教室、成法寺観音堂などを見学する文化財めぐりツアーも行われ、参加者は思い思いの文化に触れる一日を過ごしました。

この文化祭をひとつのステップに、そのテーマのとおり「みんなの絆でよりよい町へ」一日も早く復興することを改めて強く感じた一日でした。



▲只見町長らによるテープカット

# 第41回只見町文化祭

# 只見町復興に向けて 文化の力発信



右上: 12,000羽の復興「折り鶴」  
右中: (故)皆川雅舟氏の作品展  
右下: プナの木にメッセージをはる小学生

左上: メイン会場の町民体育館  
左中: 復興について紹介したメインコーナー  
左下: 元プロ野球選手が指導した野球教室



# 夢大募集

## 大賞受賞のみなさん

### みなさんの作品を紹介します～



只見小学校6年  
酒井 結咲

#### あいさつから始めよう

私が只見町を元気にするためにできることは、「あいさつ」だと思います。今、只見町は、野菜などを作って出荷をしても、風評被害のせいであまり売れないことがあります。またひどい時は、出荷さえできないこともあります。こんな状態で只見町は元気を失っていると私は思います。けれど私は震災前の只見町にもどってほしいと思っています。

そのために私にできること、私達にできることは、「あいさつ」だと思います。あいさつは震災前の只見町と今の只見町を比べると減ってきていると私は思います。「あいさつ」が上手なのは只見町の特ちょうでもあり、只見町の良い所です。そんな「あいさつ」を震災のせいでなくしたくはありません。

目を見て、笑顔で、大きな声で「あいさつ」をするのは簡単です。それは震災前は只見町のだれもができていたことだから。だから今でもその「あいさつ」ができるということです。「あいさつ」をする人、された人、だれでも元気になるということです。

そんなことを考えたので私は、町中にポスターをはりたいと思います。そのポスターを見て、「あいさつ」の大切さ、すばらしさを思い出してほしいからです。少しでも早く、あのころの只見町にもどってほしいです。だから私は今できることを、精いっぱい行いたいと思っています。



▲入賞者のみなさん「おめでとう」



只見小学校6年  
酒井 香菜子

#### 食べ物の力で

私は、今只見町の人々が元気をなくしているから、みんなを「食べ物」で元気にしたいと考えました。それが「うまいもんフェスタ」です。これは、只見町の人々が自信のある料理などを作ってそれをきそうというフェスタで、一位～三位を決めます。初めに、作った料理をみんなで食べて、食べた

中で一番おいしかった料理を選ぶのです。

選ぶ基準は、おいしい物だけでなく、アイデアがあったり、元気がでそうなメニューです。部門も二つに分かれていて、子ども部門と、大人部門です。その中できそえます。赤、黄、緑の食べ物がバランスよくあるといいと思います。

只見町の人々が元気になって、笑顔になってほしいと願っています。そして、みんなを「食べ物」で元気にできたらそれはすごいことだと思います。なので私は、「うまいもんフェスタ」を考えました。



▲賞状を受け取る酒井結咲さん

# 「只見町復興のためのアイデア」 ～アイデア大賞を受賞された

『只見町復興のためのアイデア・夢大募集』入賞者  
【敬称略】

部門	賞名	作品の題名	学校名	学年	氏名
小学生	大賞	あいさつから始めよう	只見小学校	6	酒井 結咲
小学生	大賞	食べ物の力で	只見小学校	6	酒井 香菜子
小学生	大賞	只見町朝の歌	只見小学校	3	小林 聖佳
小学生	大賞	何でもいいことしたい	只見小学校	2	小野 佑月
小学生	大賞	うけとった人がうれくなる手紙をわたそう	只見小学校	2	五十嵐 せな
小学生	入賞	大雪合戦	只見小学校	6	目黒 史也
小学生	入賞	ブチお祭り	只見小学校	6	山内 綾
小学生	入賞	自然の強さを経験して	朝日小学校	6	酒井 雪音
小学生	入賞	只見町の復興を目指して	朝日小学校	6	八久保 洋介
小学生	入賞	思いをこめて	只見小学校	5	大竹 涼華
小学生	入賞	只見にブナを植えよう	只見小学校	5	目黒 杏里
小学生	入賞	只見町こうべん当ウォーキング	只見小学校	3	新国 理紗
小学生	入賞	えま	只見小学校	3	高島 琉世
小学生	入賞	只見の写真館	只見小学校	3	目黒 拓海
小学生	入賞	只見町のめいぶつを作ろう	只見小学校	2	さかい かなえ
中学生	入賞	復興のために…	只見中学校	1	齋藤 咲希



## 只見町朝の歌

只見小学校3年  
小林 聖佳

わたしは、只見町に  
元気が、もどってほし  
いです。

毎日朝に、朝の歌をながしてほしいです。  
元気な子どもの声をながしたらいいと思  
います。おとしよりや、ひさいした人た  
ちが元気になると思うからです。歌で  
只見町を元気にして、只見町を歌でい  
っぱいにしてほしいです。

只見小、朝日小、明和小、只見中学校の  
音楽さいのがっそうやがっしょうをなが  
してほしいです。



## うけとった人が うれくなる手紙を わたそう

只見小学校2年  
いがらし せな

①二年生の国語の学習  
で『うけとった人がう  
れしい気持ちになる手  
紙をわたそう』という学習をしました。

②このかつどうを只見町ぜんたいにひろ  
めたいです。

③いろいろなところに手紙の紙をおいて  
おいて書きたいときに書いてポストにい  
れると、かかりの人が、おくってくれます。



## 何でもいいこと したい

只見小学校2年  
小野 佑月

①ちいきの人で何かし  
てほしい人のところに  
子どもたちで行きます。

②たとえば、ぞうきんがけをしてほしい、  
草をおしってほしい、うたをうたってほ  
しいなど、子どもにできることなら何で  
もいいです。

③『何でもしたい』の子どもたちに「あり  
がとうけん」をわたしてもらいます。

④そのけんはお店のものと交かんできます。